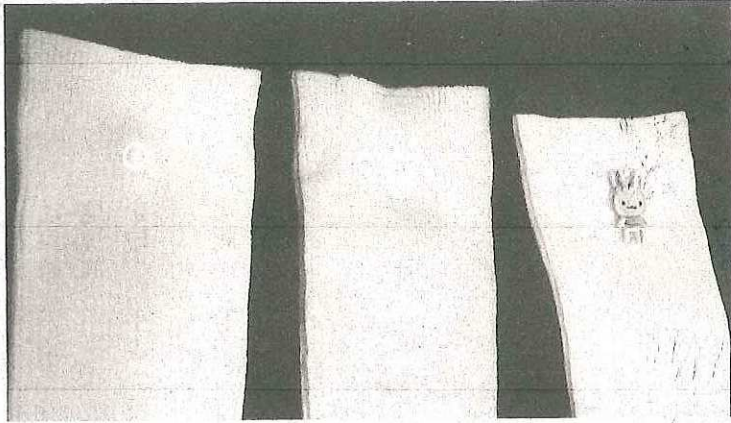


靴下洗濯ボタンで1ペア

武蔵野市の中学2年生、沢田愛結さん(13)が、洗濯の際にバラバラになりやすい靴下にスナップボタンを付けたアイデア商品「洗濯フックラク靴下」を考案した。商品は特許出願中で、5日から発明学会ビル(新宿区)で始まった「第22回身近なヒント発明展」で展示されている。同展は7日まで。



スナップボタン付きのアイデア靴下。右はボタンに飾りを付けた状態



スナップボタン付きのアイデア靴下を手にする沢田愛結さん(左)と、母・美穂さん(4日午後、武蔵野市で)

愛結さんは両親と姉の4人家族。自宅では愛結さんと姉、歯科医の父親の3人が白い無地の靴下をはいており、洗濯する度に大量の靴下の仕分けに苦労する

武蔵野の中2考案

「お母さんの仕事楽に」

母、美穂さん(49)の姿を見て解決策を考え始めた。「お母さんの仕事を少しでも楽にしてあげたかった」と振り返る。

靴下にスナップボタンを付けるアイデアを思いついたのは、自由研究のテーマについて美穂さんに相談していた小学6年の夏休みだった。愛結さんは、実際に靴下の色々な場所に付け、はき心地や見た目の良さなどを確認。その結果、両足の内側に靴下と同色のスナップボタンを付ければほとんど目立たず、ボタンの平らな面を肌に触れるようにすれば違和感を感じないこともわかった。

靴下を脱いだ時にボタンを留めておけば洗濯した際にバラバラにならず、そのまま干すことができる。美穂さんは「どの靴下もペアなのかも迷うこともなくなり、洗濯がすく楽になった」と喜ぶ。

昨冬には中学の「探究科」授業の一環で「スナップボタンを付けた靴下の商品化」をテーマに選び、一般社団法人「発明学会」(新宿区)へ何度も足を運んで相談。その中で靴下をはいている時はスナップボタンに飾りや校章も付けるというアイデアが生まれ、今年7月には特許取得を目指して特許庁に書類を提出した。

発明学会が主催する発明展にも応募したところ、アイデア靴下は全国から集まった820点の中で1次審査通過の約100点に選ばれた。発明学会の担当者は「日常生活の不便さから考えられた商品で、他の家庭でも共感を得られやすいと思う。靴下のデザイン性を損なわないまま不便さを解決している点が特に素晴らしい」と評価する。

愛結さんらは7日、このアイデア靴下約30足(1足650円)を発明展会場で販売する予定。愛結さんは「洗濯する際の負担を少しでも減らせることをアピールしたい。いつか企業のスポンサーが付き、この商品が大量生産されたらうれしい」と話している。

残る「場外」活気守る

が懸念されている。飲食店経営の女性(75)は「多少遠くても、種類も量もけた外れに多い豊洲に行く。場

小池知事 会見採録

5日

者機関の審査会の意見を基に判断する」
——厚生労働省が目黒区の子児虐待死事件の検証報

てつくる
的楽器「ア
的なレー

き肉料理「アサード」などが屋台で販売される。収益は同国支援に充てられる。

市行秀の岩公普さんけ「パラ

グアイは日系人が多く、親日国家。日本人にもパラグアイのことをもっと知ってほしい」と話している。午前10時～午後4時。雨天決行。

読売光と愛の事業団ホームページ <https://www.yomiuri-hikari.or.jp/>